

## 早稲田大学 第一文学部 現代文 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分（現代文2問、古文1問、漢文1問）
特徴・その他	長文読解問題。選択問題が中心。記述式問題は漢字の書き取りと、傍線分の指すものを本文中より抜き出す問題のみ。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(一)	キングの非暴力についての思想	<p>全体の設問数の約半分が空欄補充問題であり、やや解きにくい面もあるが、本文の長さが例年の（一）と比較して短く、内容も把握しやすいので、全体としては、それほど難しくはない。</p> <p>設問としては、問三・八が、若干レベルが高いが、本文の精密な読解と消去法により切り抜けられる。</p>	標準
(二)	「未来」についての考察	<p>哲学的な時間論が内容になっており、日頃から、このような哲学的な考察を含む授業に接していなかった生徒にとっては難解であったであろうと思われる。設問としては、問十三・十五が少々レベルが高い。問十三は「想起」を筆者がどのように理解しているかを読み取る必要がある。問十五は、常識にとらわれずに、本文を素直に読み取る能力が問われている。</p>	標準 (やや難)

### 〔総合コメント〕

(二)が例年の(二)より、やや難であったが、(一)が例年の(一)よりやや易しかったので、全体としてみると、例年と同程度のレベルであった。合格点も例年通り七割前後であろう。

(二)をみて思うことは、日頃の学習態度・学習環境の重要性である。(二)で満点をとった者の多くは、哲学的な考察を日頃から好む生徒たちであった。一文を受験するのであれば、そのような態度は必要不可欠である。